

はくあい

No.39

2014. January

社会福祉法人
京都博愛会

《写真》第14回はくあい健康まつり (H25/10/19開催)

[下]健康講演会 講師：佐々木 学 先生(京都博愛会病院 副院長)

[右上]チンドン屋 (ボランティア)



富田病院クリスマス会 (H25/12/14開催)

同志社大学ハーモニカンソサイアティのOBの方達が中心に活動されているボランティアグループ「あきらか」に演奏いただきました。



「オーダリングシステムの導入」

京都博愛会病院院長 金 盛彦

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えになったことと、お慶び申し上げます。

京都博愛会病院では、昨年11月、年々の懸案でありましたオーダリングシステムが導入、稼働となりました。導入に当たっては、一年以上前から検討を重ね、準備に多大な努力をされた導入準備委員会をはじめ、関係した皆さんに改めて深く感謝致します。

オーダリングシステムとは、従来、医師が手書き伝票(処方箋、検査伝票、食事箋など)で行っていた指示をコンピュータを介して正確かつ迅速に各部門へ伝えるシステムです。検査結果や服薬・注射の内容もすぐに確認でき、医事会計とも連動してレポートの処理もよりスムーズとなります。

このシステムの導入効果としては、外来患者さんの診療、会計待ち時間の短縮化(患者さんサービス)、伝票記載・搬送の省力化(業務削減)、指示誤りの防止(医療安全対策)、各部門での医療情報の共有化などが期待できますが、患者さんとしてのメリットをいかに最大限に引き出すことができるかが肝要であると考えます。導入当初は、種々の混乱もあり、ご迷惑をおかけしておりますが、ご理解のほどお願い致します。

すでに院内の各部門では独自に業務の簡素化・効率化を図るために医療情報システムが整備され運用されています。今回は、処方、検査、食事など一部オーダリングシステムの導入ですが、将来的には、全部門と連結したフルオーダリングシステムへと、そしてさらには、ステップアップのためには多大な費用と労力を要しますが、電子カルテ化も見据えてより円滑な運用を図ってゆきたいと思えます。

本年も病院にとっては課題が山積していますが、職員一同とともに地域に根ざした医療・介護・福祉活動を目指して一層の努力を重ねてゆく所存です。皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



基本理念

博愛 博愛の精神に基づいて、患者さまや地域の人々にやさしく、親しまれ、信頼される病院を目指します。

協調 患者さまを中心に協調の精神でチーム医療を行います。

健康 私たち自身の心と身体の健康に留意し、良い医療・介護・福祉を提供します。

腎臓病(Chronic Kidney Disease)と運動療法

京都博愛会病院 内科 小西 憲子

今まで、蛋白尿があったり、腎機能が低下している場合の運動については、原則「×」でした。というのは重量が体全体の0.5%にも満たない腎臓に心臓から拍出される血液の20数%が流れているのです。運動をすれば、血液は筋肉の方にたくさん行きますから、腎血流は減ります。腎機能が落ちていてただでも少ない腎血流がさらに減りますから、障害されている腎臓にいいはずがありません。

しかし慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease /CKD)という概念が広まってきて、運動に関しても一律ではなくなりました。CKDの段階(ステージ)によって区分する動きが出てきました。つまり、腎機能を正常(1)から末期腎不全(5)まで6段階に分けて考えます。ステージ1~3-a(腎機能が45%以上ある場合)では特に制限はいりません。が、過激な運動はよくありません。運動後は十分に休息を取りましょう。むしろ適度な運動は脂質代謝や糖代謝に好影響を与えます。ステージ3-b(腎機能が44以下30%以上)は少し控え目位でしょうか。が、ステージ4,5(腎機能が30%未満)の場合は散歩程度がよいでしょ

う。腎機能の指標となる血清クレアチニン値が男性で1.5mg/dlを超える場合、女性では1.2mg/dlを超える場合です。

蛋白尿が多い時(一日1gを超えている時)はCKDのステージに関係なく運動はひかえ目の方が無難です。透析患者はむしろ積極的に運動がすすめられます。

表 慢性腎臓病(CKD)のステージ分類

ステージ 1	正常または高値	≥90%
ステージ 2	正常または軽度低下	60~89%
ステージ 3a	軽度~中等度低下	45~59%
ステージ 3b	中等度~高度低下	30~44%
ステージ 4	高度低下	15~29%
ステージ 5	末期腎不全	<15%

京都博愛会病院
送迎車 時刻表

平成26年1月6日(月)からの「国際会館駅前ルート」運行開始に伴い、「北山駅前ルート」及び病院発の運行時間を下記のとおり変更させていただきます。

現在「北山駅前ルート」ご利用の皆様には、ご理解のうえ、引き続き通院・お見舞いご面会の際、ご利用くださいませ。

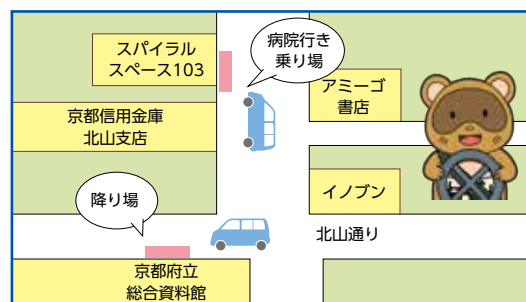
①北山駅前ルート	
北山駅前発	北山駅前ゆき
9:30	10:30
10:40	11:20
11:30	12:20
※土日・祝日は運休します	

②国際会館駅前ルート	
国際会館駅前発	国際会館駅前ゆき
8:45	9:50
10:05	10:50
11:05	11:50
12:05	
※土日・祝日は運休します	

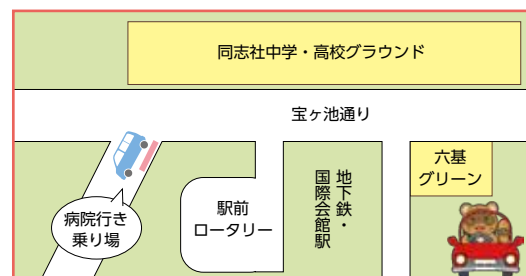
※上記は平成26年1月6日(月)からの時刻表です。

- 当送迎車は無料にてご利用いただけます。(※シルバー色の日産セレナです)
- 京都博愛会病院発の送迎車は正面玄関前より発車いたします。
- 北山駅前に到着する送迎車は府立総合資料館前付近に停車します(右地図の「降り場」参照)。
- 北山駅前を出発する送迎車は京都信用金庫北山支店北側付近に停車します(右地図の「乗り場」参照)。
- 交通事情により発着時間に遅れが生じる場合がございますが、ご了承願います。

①北山駅前ルート・乗降車場所ご案内



②国際会館駅前ルート・乗降車場所のご案内





わが町のホームドクター

患者の心を癒す笑顔いっぱい病院



上京区 山下 富美子

平成16年3月、主人が肝臓がんのため、京大病院にて二度の大手術の後、骨転移となり緩和病棟の見学を勧められました。ホスピス病棟の（当時と現在では隔世の感がありますが）あまりにも淋しい雰囲気にも恐ろしくなり、私達家族で看護に努めようと覚悟を決め、主治医の紹介で富田病院にお世話になりました。土手の上を車で走りながら病院があることは知っていましたが、自分達がお世話になるとは思ってもみませんでした。

京大外科病棟から転院で病院に着くと、喧騒な外科病棟から離れほっとしたものです。4月には桜並木が満開になり、家族的な対応をして頂きうれしく思いましたが、残念ながら主人はその年の7月に亡くなりました。

また、私がお世話になっている京大循環器内科の村上先生が湖東病院へ院長として赴任されることになり、月一度の診察を富田病院へと云われ現在に至っております。こんなご縁もあるのかと驚きました。

こちらへ参りました折、主人の最期を診て下さった看護師さんに「ご主人が亡くなった所で淋しいでしょう」と言われましたが、「全然そのような事ないんです」とお答えしました。

そして今年の4月に私自身が骨折のため入院させていただく事になり、また



また不思議なご縁をいただきました。1ヶ月の入院生活の間、諸先生、看護師長、看護師さん、すべてのスタッフの方々、皆さん笑顔でどなたも優しく接して下さることが何より印象に残ります。笑顔で素敵だと思つづくと思います。

現在も通院中ですが、理事長先生の診察の際、ご挨拶して入室すると、先生が優しく「如何ですか？今日は暑くて大変でしたでしょう」、また雨降りの時には「よく来られましたね、大変でしたでしょう」とねぎらいの言葉を掛けて下さいました。最近、ホスピス治療に接する事がありました。先生は「聞く行」と「和顔愛語」の実践をされていると思いました。「医は仁術」という言葉がありますが、まさに「病は気から」って本当にあると実感しました。温かい雰囲気、癒される病院で、人に優しい心をお持ちの先生の治療が一番だと思います。長い通院生活を送らせていただいておりますが、「これからもスタッフの皆さんの笑顔に癒される病院でありますように」と願っております。ありがとうございます。

看護物語

京都博愛会病院 精神在宅支援科 副主任 新盛 理栄

私は京都博愛会病院に就職して今年で17年目になります。現在は3人の子育てと仕事の両立で日々奮闘しています。毎日が慌しく過ぎ、ゆつくりと振り返る余裕もないまま現在に至っていますが、今回この様な執筆の場を設けて頂いたことで、少し足を止めて自分を見つめ直す良い機会となりました。

ふと冷静にこれまでの自分を振り返って真つ先に思うことは、ここまでよく辞めずに仕事を続けてこられたということです。看護学生、准看護師を経て正看護師になるまでの間、進学の都合で前病院を退職し、卒業後は新たな場所でも頑張つてみたいという思いがあり、最初に面接に伺ったのが京都博愛会病院でした。

急性期病棟で経験を積み、知識や技術を自分のものにし、看護につなげていきたいと考えていたところ、現在のA棟に配属になりました。実際に働き始めると、徐々に「この人のような看護師になりたい」、「近くで働き、学んで吸収したい」と思える素敵な先輩方に巡り会い、そこを目指して仲間と切磋琢磨していた頃を懐かしく思います。

そんな私も今まで身につけてきたスキルを糧に、少しずつ仕事の管理や改善、後輩の育成などを担う立場となりつつあります。自分のビジョンとブレない「自分の軸」をしっかり持つて仕事に携わると共に、患者様との関わりやこれまで支えてくれた仲間を大切に、これからも邁進していきたいと思います。



《岩倉幡枝楽生クラブ医療講話》



平成25年9月25日「幡枝楽生クラブ」の活動の一環として、当院が毎年1回担当する医療講話が、岩倉楽生クラブの皆様約40名の参加の下、幡枝公民館において開催されました。当院からは、
おおい たけかず
 神経内科顧問の大井長和医師、

古田事務長、医療社会事業相談室野間が参加しました。

「めまい」をテーマとした大井長和医師からの講話では、「めまい」を「脳卒中による怖いめまい」と「耳の病気などによる怖くないめまい」に分類し、それぞれについての特徴が、症例や図表を交えて説明されました。その後の皆様との質疑応答においても、日々の生活の中で実際に体験された「めまい」について、色々な質問が出されました。最後に「めまい」が話しにくさ、手足の動きにくさ、歩きにくさ、食べにくさと同時に起こった時は、脳卒中の可能性があるので神経内科や脳神経外科に早めに受診することが必要とわかりました。



お彼岸が済んでも、扇風機が活躍するような暑い日でしたが、和やかな雰囲気の中、皆様より当院に対する要望等のお声を承りました。当院が地域に密着した病院となる為の大切な機会として、この医療講話が位置付けられてきたと感じることができました。

(京都博愛会病院：相談室)

《富田病院（地域）医療講話》



今年もデイケア隣接の安楽荘で、第12回目の開催となる、医療講話を昨年10月28日に開催しました。

今回は「認知症のはなし」と題して、今年4月より内科部長に就任された、神経内科のか げ まこと鹿毛真人先生にお話して頂き、たくさんの方々にご来場頂きました。

「単なる物忘れ」なのか、「認知症」なのか。「私も物忘れをするんです。何か別の用事を言われると、さっきしていたことを忘れてしまう。これは認知症なんですか?」という質問が出ました。鹿毛先生によると、「ヒントを与えて思い出すのか、その行為自体を忘れているのか、そこが大きな差であり、ヒントによって思い出すのであれば心配はないが、思い出せないのであれば、物忘れ外来や神経内科の受診をお勧めします。」との話で、皆さん、「なるほど。」と興味深く聞いておられました。

今回の医療講話では、具体的な症状や予防方法、また周りの対応方法などの具体的なお話をして頂きました。質疑応答ではたくさんの質問が飛び交い、知識を深めていただけたのではないかと思います。

今後も地域の病院として、皆様のお役にたてるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

(富田病院：相談室)



京都博愛会病院

富田病院

訪問看護はくあい
ステーション

デイケアセンターとみた

TEL:075-781-1131 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
<http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/hakuai/>

TEL:075-491-3241 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町56
<http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/tomita/>

TEL:075-781-2711 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/hakuai_nursing/

TEL:075-491-0700 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町69
http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/tomita_care/